

な るほど その8 本願寺

太鼓楼

本願寺の東北角にある重層の楼閣で、内部に今も残る大きな太鼓は、江戸時代には周囲に時刻を告げる合図となっていました。幕末、本願寺を一時的に屯所としていた新撰組による刀傷が、今も残っていると伝えられています。



太鼓楼



阿弥陀堂門

阿弥陀堂門

昭和期の阿弥陀堂修復事業を機縁とし、1983(昭和58)年、檜皮(ひわだ)の一部葺替、飾金具の修正、金箔押などの補修が行われ、創建当初の美しい姿が再現されました。また、2009(平成21)年に御影堂門・築地堀修理の際にあわせて修復工事が行われました。

私自身、安穩と過ごすのは、今年も難しいようです。
しかし何より、世の中が安らかで平穩であつてほしいと強く思います。これから、どんな世の中になるでしょうか…。



住職レター

「世のなか安穩なれ、仏法ひろまれ」
右のお言葉は『親鸞聖人御消息』に書かれており、親鸞聖人が不安と争いの時代にあつて、念仏者の目指す道を示されたものです。
親鸞聖人七五〇回大遠忌スローガンでも

使われました。世の中が安らかで平穩であれば、争いは無くなるのでしょうか…。

さて、年始にあたり、皆さま各自、今年の抱負なり目標を掲げられた事と思います。私の抱負は、『安穩…』です。ここ数年、特に弟が信楽寺へ入寺して以降、時間に余裕なく、いつも何かに追われるがごとく生活してきました。

今年は、寺の坊主らしく、柔和な笑顔で、安らかで穏やかに過ごせたらと思っています。しかし今年も年始早々の御正忌法要から、バタバタと忙しく過ごすことになってしまいました。